

西つつじヶ丘 ハザードマップ

地域の中で見た 地域ならではの災害情報掲載

改定版



平成 29 年 1 月
西つつじヶ丘自主防災会

目次

ページ

あいさつ (自主防災会会長/自治会会長)	2
自主防災会の結成経過・組織・備蓄器材	4

ハザードマップ [西つつじヶ丘]

「避難所」(ふれあいセンター/つつじ小)と「避難場所」(公園)	5
危険箇所と防火設備 [五月台]	7
危険箇所と防火設備 [雲仙台]	9
危険箇所と防火設備 [大山台]	11
危険箇所と防火設備 [霧島台]	13
危険箇所と防火設備 [美山台]	15

災害の知識

● 「風水害」を知る

風水害の発生原因	17
台風	18
雨の降り方	19
注意報・警報・特別警報	20
河川水位情報	21
都市型水害	22

● 「土砂災害」を知る

土砂災害の基礎知識	23
土砂災害警戒情報	25

● 「地震災害」を知る

地震情報	26
------------	----

避難する

避難情報の伝達	27
避難時の注意点	28

情報を入手する

よくあるお困りごと Q&A	29
防災情報	31

はじめに

西つつじヶ丘自主防災会

会長 宮崎 友市

災害はいつ起こるかわかりません。大きな地震は100年から150年周期で必ず起こるといわれています。水害も地球温暖化の影響か、ゲリラ豪雨といわれる局地的な集中豪雨が近年あちこちで発生しています。

災害は、全く無くすることはできないとしても、もし発生したとき、事前の対処方法によって被害を最小限に防ぐことは可能といわれています。

特に 阪神・淡路大震災以後、飛躍的に進んできた防災の研究成果を学びながら、「自助・共助・公助」の心構えを持って防災意識を高めたいものと考えます。

今回、私たちの住んでいる地域の状況を日頃からよく知っておこうと自主防災会では、昨年夏から各町内会単位で、災害を中心とした日常生活での危険箇所の点検を行い、安心して住める地域づくりの第一歩として、亀岡市自治防災課防災・危機管理係の支援・協力を得て、ハザードマップ作りを進めてきました。これを機会に、みなさんが“地域を見る”きっかけになることを願っています。

地域の概況と対策

西つつじヶ丘は、南部に茱萸谷池が、西部に年谷川があり、水鳥やホタルが飛び交い、東南部に頼政塚もあって、自然豊かな歴史的な丘陵地でした。ここに40数年前、住宅地が開発され、今日、1,300余世帯、3,700余人が住む街になっています。

今回、「安全なまちづくり」のためのマップ作成を進めるなかで、地域の状況を改めて見ることができました。

地形的な状況から、高い石積みや擁壁、坂道が多く、過去には道路法面の崩落や路面沈下、山地の土砂崩壊がありました。急勾配の坂道も多く、交通上危険と思われる箇所、冬季路面凍結による危険箇所も多数あり、また、調整区域と接している地域での土砂掘削放置による崩落の危険性、民有地のブロック塀のひび割れや擁壁の亀裂による危険箇所など、防災という点から、気がかりなところも見られます。

これらは、行政側と住民側で、それぞれ日常的な安全点検を行い、防災対策を進めていくことが必要です。

「西つつじヶ丘ハザードマップ」発行にあたって

西つつじヶ丘自治会

会長 串崎 哲史

「私たちの地域は私たちが守る」を合言葉に

西つつじヶ丘の皆様には、平素は自治会並びに自主防災会の活動に格別のご理解とご協力をたまわりありがとうございます。

東日本大震災から5年以上が経過し、昨年4月には熊本県を中心に北九州地域において広範囲に強い地震が発生、多くの犠牲者が出るとともに現在も多数の被災者の方々が、厳しい避難生活を余儀なくされています。犠牲になられた方々のご冥福と被災地の一日も早い復旧復興を心よりお祈り申し上げる次第です。

東北あるいは熊本のいずれの震災も、被災地が亀岡から比較的遠いこともあり、私たち自身が震災の痛みを肌で感じているかという、必ずしもそうとは言えないのが実情です。しかし、今後30年以内に発生することがほぼ確実といわれる南海トラフ地震や東南海地震を考えたとき、東北や熊本の震災は決して他人事とはいえません。私たちも高い確率で同様の状況におかれかねないことを認識する必要があります。

また、警戒すべきは震災ばかりではありません。地球温暖化の影響で、日本に上陸する台風も年々大型化しており、暴風雨による家屋や急傾斜地等の倒壊なども、西つつじヶ丘の団地そのものの老朽化の中で危険性が増大しているのも事実です。さらに、一昨年(平成27年)、京都府による調査の結果、ここ西つつじヶ丘でも、土砂災害警戒区域として4ヶ所が指定されたことも記憶に新しいところです。

こうした近年の災害の傾向や西つつじヶ丘の実情に鑑みたとき、地域の防災減災対策を従来以上に真剣かつ実践的に講じなければならいと存じます。その施策の一つとして、今回この「西つつじヶ丘ハザードマップ」を作成させていただきました。ハザードマップにつきましては、平成22年度に当時の自治会役員の方々のご尽力により作成していただいたものがありましたが、その後数年間で、この地域における防災上の環境も大きく変化してきたことにあわせ、平成22年度版のマップの在庫がほとんどなくなったことから、この度、改定版を作成し、住民の皆様方へ各戸配布させていただいた次第です。

今回の改定版ハザードマップの特徴としては、この地域の危険箇所と思われる場所と注意事項を分かりやすくお示したことにあわせ、災害に関する基本知識や万一災害が発生した場合に災害から身を守る方法、日頃の防災上の心得等、可能な限り内容を充実させていただいた点があげられます。住民の皆様方には本誌を十分ご熟読いただき、日頃から防災減災にお心掛けいただくとともに、有事の際に命を守るためにご活用いただきたく存じます。「私たちの地域は私たちが守る」を合言葉に、今後ともご協力をたまわりますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、今回のハザードマップの作成にあたりましては、宮崎友市西つつじヶ丘自主防災会会長をはじめ、昨年発足いたしました自主防災会常任幹事会の皆様方に大変ご尽力いただきましたこと、また防災関連の資料提供につきまして、惜しみないご協力をたまわりました皆様方に心より御礼申し上げます。

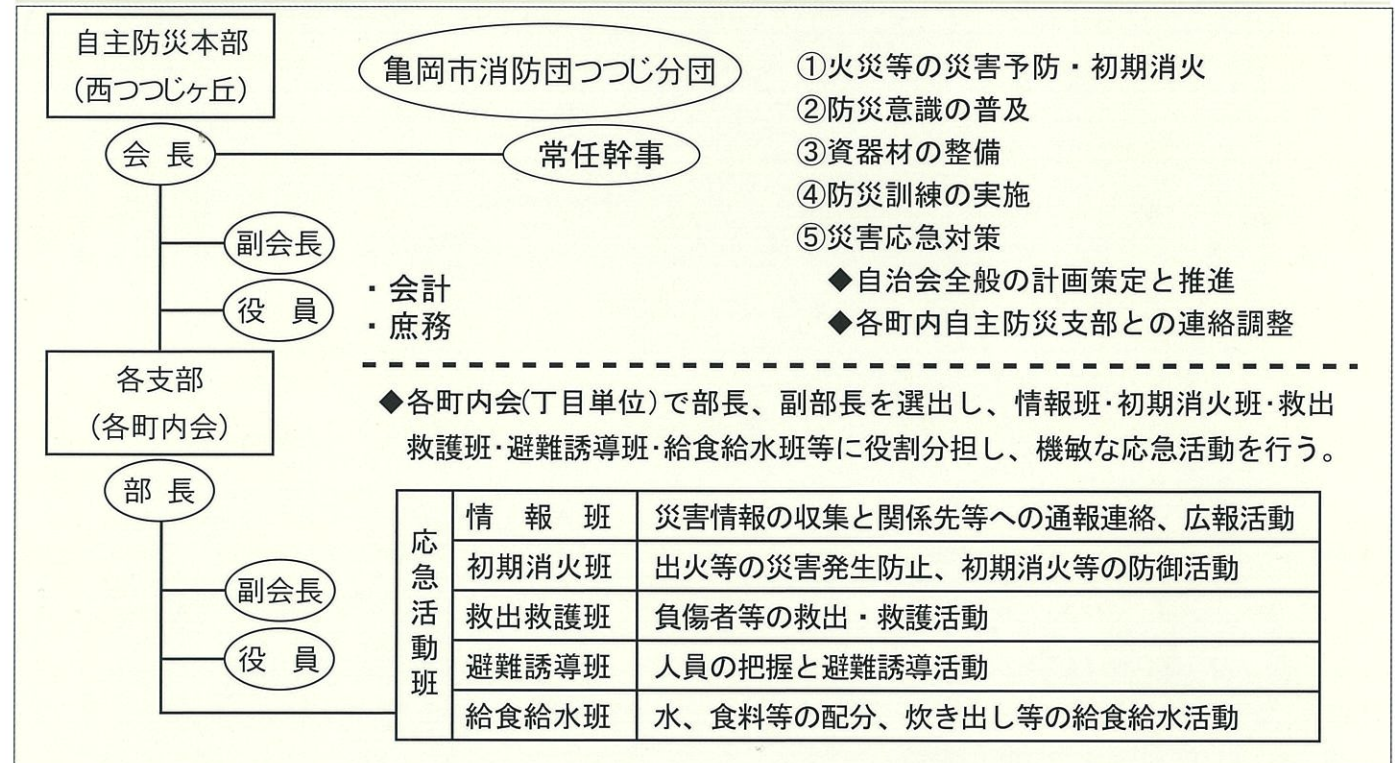
結びにあたり、西つつじヶ丘の皆様方に、今後とも自治会並びに自主防災会に対し、一層のご理解とご協力をたまわりますことをお願い申し上げ、本誌発行のご挨拶とさせていただきます。

自主防災会の結成経過とその後の活動

災害の未然防止・被害軽減を目的に平成3年3月21日、西つつじヶ丘自主防災会が発足、防災資材の充実や自主防災活動が続けてきました。今日、年間の主な活動としては、自主防災訓練、市レベルの防災講演会参加、高齢者の防災教室、年末特別警戒、消防出初め式参加、防災啓発広報活動など行っていますが、平成14年4月消防団つつじ分団が結成されてからは分団との連携も強めながら防災意識の向上につとめ、安心安全の地域づくりに励んでいます。

平成27年10月1日、自主防災会規約改正に伴い、常任幹事会が発足しました。

西つつじヶ丘自主防災会の組織編成と任務

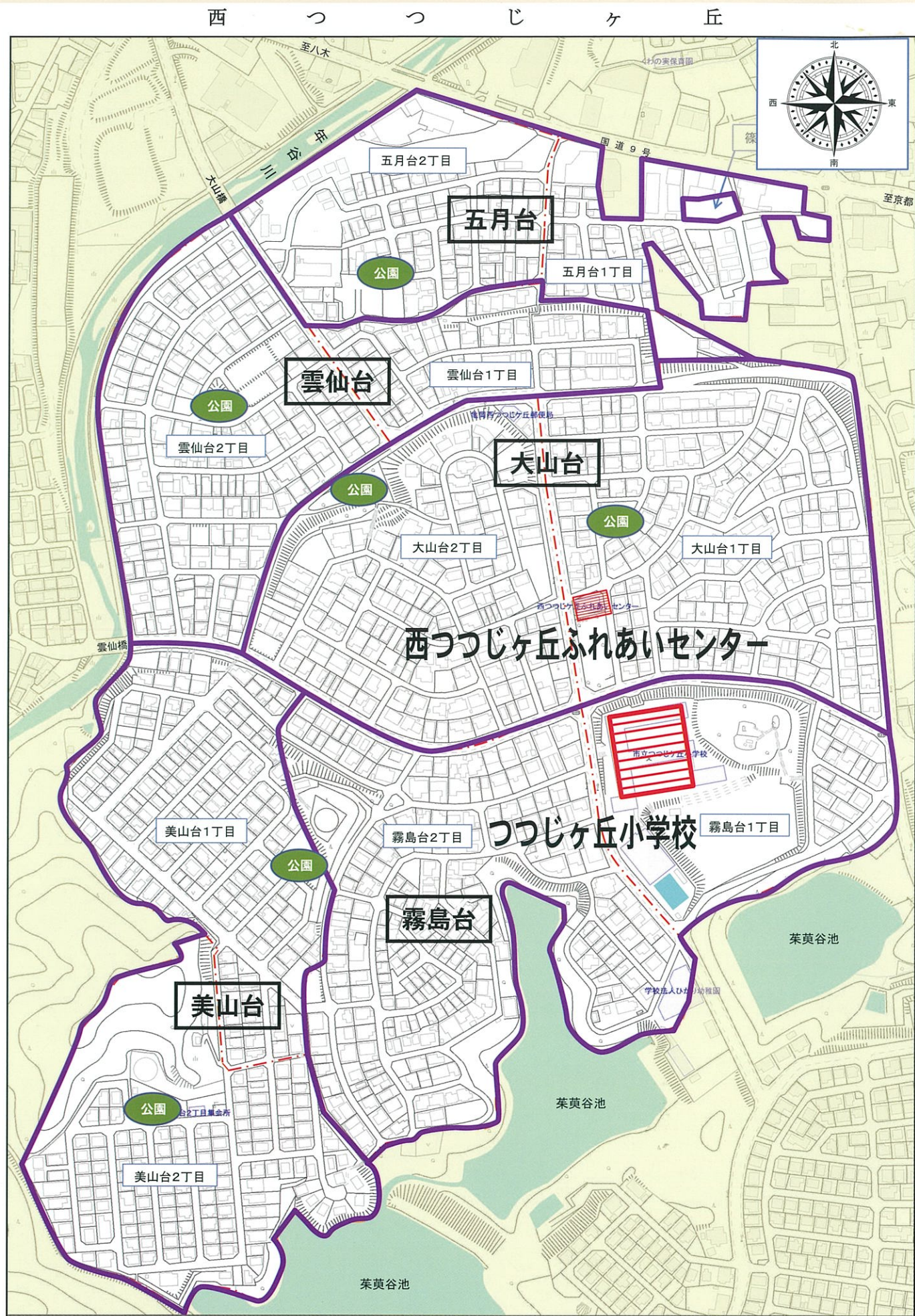


備蓄している防災資器材等 (平成28年3月現在)

品名	数量	品名	数量	品名	数量
防災会旗	1	毛布	51	1灯式投光器	4
法被	39	土嚢	200	ガス炊飯器100炊	1
ヘルメット	43	防災器材1式	1	高張提灯	1
腕章	57	長靴	32	夜間巡回用パトバ	3
照明器具	1式	拍子木	10	トビ	3
延長コード	3	ブルーフォーム	21	懐中電灯	5
ハンドメガホン	5	ブルー帽子	30	ストーブ	1
防水シート	36	タローブ(ビニール)	1式	クーボックス	1
炊飯装置	1	赤バケツ	58	三角コーン(赤)	4
二つ折り担架	9	青バケツ	4	投光器	1
救命ロープ	1	鎌	17		
10リットル水袋	27	救急医療セット	1		

災害時は誰もが使えるように訓練が行われる時には積極的に参加してください。

各家庭での備蓄も大切です。7日分の食糧等の備蓄を!



災害時の

避難所

(学校や公民館など)

と

避難場所

(公園や運動場など)

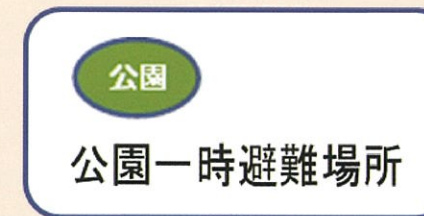
[平成 25 年 6 月に改正された災害対策基本法に基づく定義]

1. 一定期間滞在し避難者の生活環境を確保するための避難所。
2. 一時的宿泊が可能な設備を有する施設等。
3. 具体的には、小中学校や公民館などの公共施設が指定されています。

1. 切迫した災害の危険から逃れるための緊急避難場所。
2. 基本的には食料や水の備えはありません。
3. 具体的には、大規模な公園や緑地などが指定されています。



[西つつじヶ丘ハザードマップ上のマーク]



(集合場所)



西つつじヶ丘ふれあいセンター
収容人数 128 人 (0771-23-2444)

亀岡市立つつじヶ丘小学校体育館
収容人数 501 人 (0771-23-7877)

